

# アメリカのメキシコと ベトナム系25歳の 混血 女性に對する にきび患者治療の 治驗1例 清胃散, 魚腥草, 鍼の治療が 中心

尹在弘\*

OC Family CAM Clinic

---

## Abstract

---

A Clinical Report On 25 Years-old Female Patient With Acne In U.S.A Through Chung-We Mix Extract Powder, Houttuyniae Herba Extract And Comedone Extractor

Jaehong Yoon

OC Family CAM Clinic

### Objectives

This study is report the effect of Asian Medical treatments for acne.

### Methods

25 years old mixed Hispanic female in California resident patient who was suffering from acne was treated with the Chung-We mix Extract powder, Houttuyniae Herba Extract and comedone extractor. She was taken a picture to compare with before and after treatments.

### Results

Her acne was decreased and global acne grading system by 35 points to 7point improvement on the after treatments.

### Conclusion

This case has the effectiveness with Herbs. According to Asian medicine, the caused of acne is internal problems and the acne is diagnosed as several kind of heats in the internal organ. Further clinical case of acne is needed for better results and to develop the ways of accurate diagnosis.

### Key Words

Acne, Chung-We Mix Extract Powder and Houttuyniae Herba Extract, heat in the internal organs

---

\* 교신저자 : Jaehong Yoon / 소속 : OC Family CAM Clinic

Tel : (310) 978-5870 / E-mail : mydoctorjae@gmail.com

투고일 : 2013년 9월 30일 수정일 : 2013년 12월 21일 게재확정일 : 2013년 12월 25일

## I. 序論

にきび(尋常性痤瘡)は 皮脂腺の慢性炎症性疾患で青年の顔面 首,胸部に 発生するもので 臨床的に 面皰 膿ほう 膿腫 結節 治療後に 癍痕を 残すこととなります<sup>1)</sup>. にきびの 発症は 皮脂を 分泌する. 毛穴がつまり 硬くなり (異常角化) 男性ホルモンと アクネ桿菌 (Propionibacterium acnes -P.acnes) が 相互作用して 毛穴の 内部に 炎症がはじまる<sup>2)</sup>. 初期の 面皰の 時期は 塗布剤で 様子を みて 効果がみられないときには 経口剤の 投与 および 物理的 治療を 行う<sup>3)</sup>.

にきびの 漢方 医学的 名称は 痤瘡, 面皰が 一般て きであるが 痤癩, 面生瘡, 粉刺, 面皰 面皰皰, 面腫 面熱風 肺風粉刺なども 適用される<sup>4)</sup>. 痤瘡の 原因を《黄帝内經素問》<sup>5)</sup>には 汗出後に 風, 濕, 寒に 接触して 発生した ことについて 言及したが (汗出見濕, 乃生痤癩. 高粱之變, 足生大丁, 受如持虛, 勞汗當風,…) . 痤瘡の 原因について 総括すると 六淫の中では 風,熱,濕,火, 寒が 関わっており 内部的要因としては 肺經血熱 腸胃濕熱 脾虛濕痰, 血熱, 毒熱, 濕毒, 陰虛血熱 痰飲などが 関連されて 蔵部では 肺, 脾, 胃が 密接に 関連されている<sup>6)</sup>.

最近まで 林<sup>7)</sup>, 李<sup>8)</sup>, 金<sup>9)</sup>, 洪<sup>10)</sup>, 徐<sup>11)</sup>, 吳<sup>12)</sup>, 羅<sup>13)</sup>などの 処方 が 及ぼす 効果に 関して 報告されたが 清胃散を 利用した にきび症例報告は 探して 見ることが できなかった. 本患者の 主症状を 陽明經の 胃熱で 顔の 津液が 燥渴して 血鬱, 血熱した 状態で ポア 氣分の 肺氣を 補うために 肺正格が 書いて 血分の 血鬱 血熱を ほぐすため 小腸正格が 選用了<sup>13)</sup>.

これに 本症例の 患者は 米国在移住の 25歳 の ヒースピ エニクギエ混血女性で 2012年 2月 10日より 当院で 11週間の 漢方治療の 結

果大変顕著な 結果を 得られたので その 治験例を 報告する.

## II. 症例

### 1. 症例

- 1) 患者 ; 25歳,メキシコと ベトナム系 混血女性 カリフォルニア在住.
- 2) 主症状 : (1) 面皰が両ほつた.こめかみに多数 (2) 顔面熱感, 口渴, 咽喉乾燥, 口臭
- 3) 付帯症状 : に対する ストレス うつ病 感情コントロールが できないことを訴え 頭痛, 憂うつ、定期的 腰痛, 膝の痛み 膝がつぶれること 顔面紅潮, 活発して頻脈.
- 4) 発症時期 : 2009年 1月
- 5) 発症要因 : ストレスにより 煩雑な外食 インスタント食品の 常用,睡眠不測, 不規則な 生活習慣.
- 6) 治療期間 : 2012年 2月 10日 - 4月 24日 (22回の通院)
- 7) 患者の病歴 : 無し
- 8) 家族の病歴 : 父 高血圧, 母 糖尿病.
- 9) 飲酒、喫煙 : 無し
- 10) 常用薬剤 : 無し
- 11) 月経暦 : 初潮 12歳の頃, 生理痛 (最初の 1, 2日) 周期一安定, 陰部にかゆみ, 子供を生んだ 経験無し
- 12) 脈拍 : 86/min. 血圧 : 111/75.
- 13) 身長 / 体重 : 168cm / 60.8 kg
- 14) 漢方治療 : 経験無し.

### 2. 評価基準

- 1) にきび症状診断分類

Table 1. The Global Acne Grading System by First Acne Condition

Location	Factor
Forehead	2
Right Cheek	2
Left Cheek	3
Nose	0
Chin	3
Chest and upper back	0

Note: Each type of lesion is given a value depending on severity: no lesion=0, comedones=1, pustules=3 and nodules=4. The score for each area(Local score) is calculated using the formula: Local score=Factor x Grade(0-4) The global score is the sum of local scores and acne severity was graded using the global score. A score of 1-18, os considered mild: 19-30, moderate:31-38, severe: and >39, very severe

Naの<sup>12)</sup>において既に選択して評価された Global Acne Grading System を基準と 診断した. 各タイプごとに にきびの 程度を 4段階に 分けて 顔の 各部位を 分けて 計算する方式だ. 各部位別 factorの 点数を 各タイプごとの 等級に 乗じて 出た 点数を 基準に 1~18は とても 弱い 程度 19~30は重度の 31~38点 ならひどい 状態 39点以上 ならすごく ひどい 状態に 分類するが この 患者の 場合には 35 点 でひどい 状態に 分類された.

## 2) にきび 症状の 診断

両頬 口の 周りに 発症した 多数の じくじく 気味の 面皰 化膿性 面皰結節が あり. Global Acne Grading Systemの 基準の 化膿性面皰が 37個 結節が 1 1 個 また他にも 症状が 悪化しているものも あり そして 小さな にきびが 顔全体に 分布されて いた. この患者の 場合には 35点 でひどい 状態に 分類された(Table 1).

## 3) 漢方医学的の 診断

本患者は 顔面熱感, 口渇, 咽喉乾燥, 口臭などの 主症状を 陽明經の 胃熱で顔の 津液が 燥渴して 血鬱, 血熱した 状態で ポア 氣分の 肺氣を 補う ために 肺正格が 書いて 血分の 血鬱 血熱をほぐ

すため 小腸正格が 選用した<sup>13)</sup>.

## 3. 治療方法

### 1) 針の治療

- (1) 材料: 1回用 Stainless Steelホチム使用. (東方 針具製作所0.20\*30mm)
- (2) 穴位置 および 施術方法: 小腸は 兵火で 肺と 合わせになると 係数が 力を受けるため に 身柄には 小腸を 養っている 法の 原則に 沿って 小腸正格 右側: 後谿, 足臨泣, 補/通谷, 前谷瀉と<sup>14)</sup> 左側: 太白, 太淵 補 / 少府, 魚際 瀉(肺正格)<sup>15)</sup>を 交代で 平補平瀉し. その他, 首と頬 あごにひどい にきびには 阿是 穴を 中心に1つで4個を 全体で約 50個程度 病変に 自沈した. 論鍼時間は20-25分した.

- (3) 診療回数 計8週間の 来院中 鍼治療は 初の 1ヶ月は 一周に3回, 4週間後からは 一週間に 1-2回の 頻度.

### 2) 漢方薬治療

- (1) 漢方薬カプセル 治療

Table 2, Chung-We Mix Extract Powder Prescribed configuration.

漢方薬	生薬名	容量(g)
黄連	Coptidis Rhizoma	0.6g
当帰	Angelicae Gigantis Radix	0.6g
乗馬	Cimicifugae Rhizoma	1.2g
牡丹	Moutan Cortex Radicis	0.9g
生地黄	Rehmanniae Radix Crudus	0.6g
Total		3.9g

Table 3, Score for each treatment.

Exam Day	Forehead	Right Cheek	Left Cheek	Nose	Chin	Chest / Back	Score
1st	4	4	4	0	4	0	35
5th	3	3	3	0	3	0	29
16th	2	2	2	0	2	0	20
22th	1	2	1	0	0	0	7

漢方ではにきびは患部の熱が下がらずに炎症がおきるので熱を下げるのが治療の基本になりこの患者の場合は胃腸の熱が高いので清胃散<sup>17)</sup>を使うことにしたしかし煎じ薬には拒否感をしめたので。

(2) 構成薬剤-1カプセル基準量 (Table 2).

(3) 服用回数：カプセルにして一日3回食前2カプセルを2月14日から3月13日(2012年)の一月間服用そして一日2回ずつ残り3週間服用。

(4) 服用時の注意事項でアルコール油っこい食べ物小麦粉の食べ物乳製品を避けて上に消化器に負担になる可能性がある料理を避けるように注意。

3) 魚腥草の茶を服用<sup>16)</sup>

魚腥草50gを水1lを入れて沸き始めたら中程度の調節に30分から1時間ほどもっと煮沸<sup>18)</sup>。(水

の量の初めの1/2程度に維持)：冷蔵保管後にのどが乾く時一日3-4杯くらい服用。

#### 4) 化粧水の塗布

魚腥草の茶を服用と一緒に下記の構成物を混化粧水で作ってスプレー容器に入れた後1日3-4回にきび部位に塗布。

- 化粧水の構成：魚腥草抽出物 5g(服用する魚腥草の茶と同様), ビタミンC 4g, Ethanol 1g,

#### 5) スキンケア

スキンケアはNa院長の方法<sup>12)</sup>によって、施術した。それに加えては開放面皰の場合は面皰抽出機を使用し垂直に圧迫して患部の周りも押して不要物と血が出るまで押して除去閉鎖面皰の場合は中央に先端を利用して穴を開けあとは同様にする。炎症がひどい所は傷跡で進行するために圧出していなかった。

#### 4. 治療の経過 (Table3).

### 1) 2012年 2月 10日〈初診〉

不規則な生活 仕事のストレス等で 顔面がぼてり 気味で 金曜日の 夕方であることも 重なり 大変疲れた 表情で 来院. 結節 一役 1 1個, 激しい 炎症 -約37個 にきび あちこちに 進行性 癬痕など 重症も診断 Global Acne Grading System 35 点で ひどい 状態に 分類された. 府症状では 口渇, 咽喉の 乾燥, 顔面紅潮に 時折乱れた 症状も 見えた (Figure 1).

### 2) 2012年 2月 28日〈診療〉

その後の6回の治療で 鍼治療を5回, スキンケアと 面皰抽出, カプセルの服用,そして 塗布薬として作った 化粧水を 患部に 1日 3-4回 塗布した 結果 化膿性面皰が 24個に 結節が 6個までに 減り Global Acne Grading System 35点で 29点に 変わった. 来院ごとに 症状の 回復が 顕著に見られた. 口の渇き 咽喉の状況 顔面紅潮も 回復が 診られた.

### 3) 3月 1日から〈診療〉

来院中 5回の 鍼治療, そして スキンケアと 面皰抽出 療法 カプセルの 服用 (3月 14日からは 一日 3回から 2回に減らし 4月 2日迄の 服用) 塗布薬などの 治療で 結節が 2個 化膿性 面皰が 7個までに 減り Global Acne Grading System 29点で 20点に 変わった. 顔面紅潮 口喉の 渇きも 無くなり 咽喉も 回復. そして 患者自身が この治療に 自身を 持ち出した.

### 4) 4月 24日〈診療〉

4月 10日から 24日は 回復の 速度が 少し 緩まった 感がある. 4月 13日, 20日, 24日は 鍼治療も 併用 カプセルは 2日以降 ストップ 押し出しと 塗布薬のみ. 結節は 2個 化膿性 面皰は 4個になり Global Acne Grading System 7点で とても 弱い 程度である. 治療をつうじて 食生活の 改善 とりわけ 脂濃いもの 小麦粉 乳製品を 避けて 消化器に 負担の かけられない 食習慣を 当人が



Figure 1. Feb 10, 2012

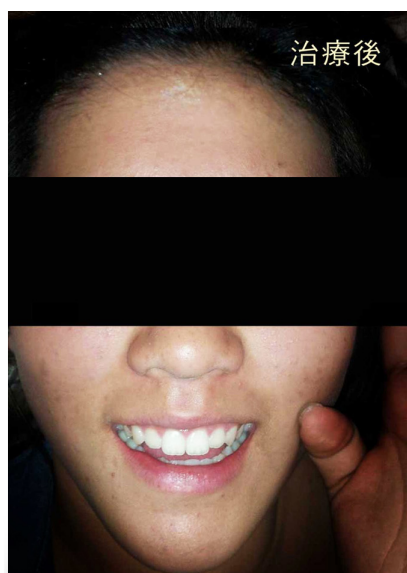


Figure2. Apr 24, 2012

実践した (Figure 2).

### Ⅲ. 考察

にきびは思春期に多く見られ毛胞皮脂線の脂の分泌が加速されて起こる。炎症性皮膚疾患で臨床的ににきび、丘疹、膿疱、結節と炎症度によって呼び名が代わり重度になると傷を残す。原因は毛穴が皮脂や角質がたまり、そこに男性ホルモンで刺激をされたアクネ桿菌 (*Propionibacterium. Acne*) が相互作用して発生する<sup>19)</sup>。にきび患者の内脂肪成分には変化が見られる。Acly CeramideのLinoicacidとCholesterol含量は減少してsqualeneは増加する<sup>20)</sup>。これがCholesterolとCholesterol Sulfaterのバラツキを招き皮脂線の角質化 (follicularretention hyperkeratosis) 皮脂の異常分泌がおこり<sup>21)</sup> 毛胞の通気を遮断し嫌気性細菌のアクネ桿菌の増殖を促す。アクネ桿菌は毛穴の皮脂を栄養として増殖して脂肪分解酵素 (リパーゼ) で皮脂を遊離脂肪酸にする。嫌気性細菌である *P. acnes* がよく育つ環境となる。*P. acnes* は脂肪分解酵素と化学主成分を分泌して自由脂肪酸を作って白血球が毛嚢周りに集まるようにして彼らが肌根壁を刺激して破壊して肌根内容物が真皮内に流出されて炎症反応が起こるようになる<sup>22-24)</sup>。炎症を誘発する原因は皮脂が微生物の脂肪分解酵素によって遊離脂肪酸へ変化し過酸化脂質へ酸化されて炎症が起こる。代表的な嫌気性細菌がアクネ桿菌でアクネ桿菌は酸素の無い脂線の奥に常住しているのでこれが脂肪分解酵素によって過酸化された時に炎症が進み、丘疹、結節、膿疱の過程を経てScarを形成する<sup>25)</sup>。にきびに対する治療はホルモンの皮脂の分泌増加病原性因子の異常性角化 *P. acnes* の増殖及び炎症を抑

制するものである併発程度によって局所塗布剤の使用で抗生剤の全身投薬を決定する。局所療法では皮膚清潔薬用石鹼 Benzoyl peroxide Retinoic acid 局所塗布用抗生剤 (Clindamycin) Comedo extractor を利用した押出療法 副腎皮質ホルモンの病変内注射がいて全身療法では抗生剤 女性ホルモンに不足して皮脂ホルモン剤などを投与する方法があり 以外に食餌療法があるが料理による影響はあまり大きくないので除外食べ物は必要ないがバランスの取れた食事をして過度な脂肪とビタミン不足は避けるようにして心を楽にすることが重要 便秘、胃腸障害、生理不順などのような内部的症状が他にないか、一緒に検査して適切な治療をする亭がより効果的だ 単一治療方法は ないことが明らかとなっている<sup>26)</sup>。大抵の場合にきびは何年も持続する慢性疾患で治療終了時点を決定することが一番難しい問題だ。

漢方医学でにきびは痤瘡などに相当しその原因は主に肺、脾、胃の虚實と風濕熱火に認識されて肺經風熱、脾胃濕熱、衝任不調などで辨證なって辨證によって加減枇杷清肺飲<sup>27)</sup>、補中益氣湯加味<sup>28)</sup>、連翹敗毒散加味<sup>29)</sup>、清上防風湯加味<sup>30)</sup>、加味升麻胃風湯<sup>31)</sup>、黃連解毒湯加味方<sup>32)</sup>、などが使われてきた。鍼灸治療中に舎岩鍼で皮膚疾患の方によく使われるのはことは小腸正格、肺正格、大腸正格などが挙げられる。肺正格は燥熱による皮膚疾患に使えるのに、<sup>15)</sup>では皮毛者肺金之所生也 肺氣盛則皮毛致密而潤澤。として肺氣が充実しなければ津液が宣通するようになって皮毛が潤澤となると述べ病的で見ると肺氣の不足が津液の運行拡大を招けば燥熱を形成して皮毛が乾燥になったり分かれるようになる<sup>14)</sup>。小腸正格は血分に作用して活血通絡作用がある… している<靈樞、癰疽><sup>33)</sup>で寒邪客于經脈之中則血澀、血澀則不通、不通則衛氣歸之、不

得復反, 故壅腫, 寒氣化爲熱, 熱勝則腐肉, 肉腐則爲膿. として小腸正格の活血通絡作用を通じて血鬱を改善市つけながら托裏作用を発揮するので心相性にきび各鐘化膿性発疹に使われうる<sup>14)</sup>. 本患者は顔面熱感, 口渴, 咽喉乾燥, 口臭などの主症状を陽明經の胃熱で顔の津液が燥渴して血鬱, 血熱した状態でポア氣分の肺氣を補うために肺正格が書いて血分の血鬱血熱をほぐすため小腸正格が選用した. また本症例では陽明經の胃熱で顔の津液が燥渴<sup>34)</sup>させたことと普段の食習慣が悪くて米国インスタント食品やパンまたはなどのメキシコ料理を過度に摂取することにより体内に毒素がたくさん積もった事とストレス及び睡眠障害によって長い間にエキスが乾いて面赤(顔面紅潮)面の熱感ともに炎症性面皰が大きく, 化膿がひどい患者にきびメキシコ料理の場合症状や病変自体が患者やにきび自体が大きな病変を起こさないが患者に情緒的社会的な対人関係面で大きなストレスを与えていることを知ることができる.

清胃散<sup>17)</sup>は當歸, 牡丹皮, 升麻, 黃連の薬剤で作られたものです. <景岳全書><sup>34)</sup>にみると清胃散の効能は胃腸の熱を冷やしてくれて熱くなった血を涼しくしてくれる清胃涼血です. 陽明の熱によって発生する歯痛に対する処方を顔部ににきびに発生する熱除去に応用してみた<sup>35)</sup>. 魚腥草抽出物に対する成分分析研究では精油<sup>36)</sup>脂肪酸とアミノ酸の造成 alkaloid flavonoidと成長段階や部位によって quercetinの含量などが報告されており<sup>37)</sup> 生理活性の研究では地質過酸化抑制作用, 抗菌活性, 抗ウイルス, 抗酸化活性, 重金属の毒性抑制効果, 肝臓保護作用などが知られている<sup>38)</sup>. ここに肌の蛋白質のコラーゲンの合成を促進させ肌に弾力を与える蛋白質エラスチンを保護して小じわを予防するビタミンCと

魚腥草抽出物だけで合成し1日3-4回にきび部位に塗布来て一緒にスキンケアはNa院長の方法<sup>12)</sup>によって、施術したのは効果的だと見た.

2012年2月10日初診時には顔の両側ににきび病変は結節が11個炎症性面皰が37個程度であり. 癬痕がる重症にきびもあり Global Acne Grading System 35点でひどい状態に分類された. 口渴, 咽喉の建造, 顔面紅潮, などの症状があった. 2012年4月24日22回目来院時にはにきび病変は結節が2つ炎症性面皰が程度に Global Acne Grading System 7点でとても弱い程度である. また同伴症状も好転した. 進行が完了した癬痕だけに. 全体的に進行中の丘疹, 結節は微々たる状態で患者も自信を持って治療を怠らなかった. 治療を通じて思ったのは着実に患者が治療するように. 継続的な激励と確認が必要されることである.

今後研究の質を高めるためにもっと多くの臨床症例と多様な診断基準を設けることが必要であると考えられる. 韓医学治療に全く受けなかった米州の居住者に漢方治療を通じて有意な効果を得ることで文化と社会的背景が他の米州地域の主流社会で韓医学の増進にさらに多くの臨床症例と多様な診断基準を持って資料を蓄積し皮膚科の漢方治療の根拠を設けなければならないとみなされている.

#### IV. 結論

2012年2月10日から2012年4月24日まで米国カリフォルニア州所在 OC Family Acupuncture Clinicで来院患者のにきびを訴えるメキシコとベトナム系混血女性に米国カリフォルニア在住患者1人に対して一般的な漢方医学治療と漢方薬

と 舍岩鍼とスキンケアを利用した にきびの 押出治療後次の ような 結論を 得た.

本症例患者に 鍼治療と ともに来院時に スキンケアと にきび抽出機を利用して 病変の 周りを 押して にきびを 押出をする 治療と ともに 清胃散カプセルに 作って 服用, して スキンケアと一緒に 魚腥草 抽出物と 化粧水の 塗布を 着実に 実施した 結果, Global Acne Grading Systemによって 35点から 7点に 状態が 好転した 結果を 得た.

不規則な 生活習慣と 職場生活による ストレスと 顔部分の 熱感, 口渇の 主症状と 浅い眠り 憂うつな感情の コントロールが できない症状 ひどくた 状態で 来援した 患者は 症状が 消えながらよく 笑いを 見せて性格も 明るくなっている.

## 參 考 文 獻

1. 이 웅신. 임상 피부과학. 서울, 여문각, 1987:217-220.
2. 안성구, 성열오, 송중원. 여드름 바이블 진단과 치료. 서울, 도서출판 진솔, 2006:61-93.
3. 정종영. 여드름. 서울, 도서출판 엠디월드. 2007: 5-17.
4. 정혜윤, 지선영. 여드름에 대한 동서의학적고찰. 동서의학. 1997;22:41-54.
5. 王琦. 黃帝內經 素問今釋. 서울, 정보사, 1983: 14
6. 임희선, 채명윤. 加減枇杷清肺飲이 面疱에 미치는 영향에 관한 실험적 연구. 大韓眼耳鼻咽喉皮膚科學會誌. 2000;13:1-21.
7. 이진아, 홍승욱. 補中益氣湯 加味方으로 치료한 여드름 환자의 임상보고. 大韓外官科學會誌. 2008;21:191-197.
8. 김성범, 김경준. 連翹敗毒散加味方이 炎症狀態의 面疱에 미치는 影響. 大韓 眼耳鼻咽喉 皮膚科學會誌. 2002;15:50-62.
9. 홍석훈, 노석선. 清上防風湯加味이 面疱에 미치는 影響. 大韓眼耳鼻咽喉皮膚科學會誌. 2002;15: 315-35.
10. 서형식. 加味 升麻胃風湯이 면포에 미치는 실험적 연구. 大韓韓醫學會誌. 2005;26:134-147.
11. 오충선, 김미선, 김일, 김혜윤, 박성익, 최승일, 홍대성. 黃連 解毒湯 加味方 발효한약으로 치료한 여드름 환자 증례. 大韓外官科學會誌. 2009; 22:228-236.
12. 나 순경, 나 은선. 백인 여성 여드름 환자의 한방치험1례. 大韓 韓醫診斷學會. 2013;17:169-177
13. 高白華. 實用中醫外科學. 上海, 上海科學技術出版社, 1994:535-536
14. 김관우. 舍岩鍼法 隨想錄. 서울, 초락당, 2006: 139-141, 312-313.
15. 黃元御. 黃元御醫學全書. 北京, 中國中醫藥出版社, 1999:791.
16. 강 찬구. 신한방 약물. 서울, 경원, 1993:32.
17. 李東恒. 蘭室秘茂. (金元四大家醫學全書). 天津, 天津科學技術出版社, 1990: 20-22
18. 박 찬의. 여성초 추출물이 유체에 미치는 영향에 연구. 대한본초학회지. 2010;25:147-149
19. 박윤기, 안성구, 이승현. 흔히보는피부질환. 서울, 고려의학, 1993:59-72.
20. 이승현, 박태현. 여드름의최신지견. 항공우주의학. 1996;6:57.
21. Webster. G. F., Tsai. C. C., Leyden. J. J.. Neutrophil lysosomal release in response to Propionibacterium acnes. J. Invest. Dermatol. 1979;72:209.
22. Gould. D. J., Cunliffe. W. J., Holland. K. T.. Chemotaxis and acne. J. Invest. Dermatol. 1977; 68:251.
23. Lee. W. L., Sunthraligam. K., Fikrig. S. M., Shalita.



- A. R.. Neutrophilchemitaxis by *P. acnes*. Clin. Res. 1977;25:283.
24. Tucker. S. B., Rodgers III R. S., Winkleman. R. K, Jordan. R. E.. Inflammation in acne vulgaris. Mechani J. Invest. Dermatol. 1977;68:237.
25. 醫學教育研究院, 家庭醫學. 서울, 서울대학교출판부, 1995:715-6.
26. 大韓皮膚科學會刊行委員會. 皮膚科學. 서울, 여문각, 1990:347-50.
27. 임희선, 채병윤. 加減枇杷清肺飲이 面疱에 미치는 영향에 관한 실험적 연구. 大韓眼耳鼻咽喉皮膚科學會誌. 2000;13:1-21.
28. 이진아, 홍승욱. 補中益氣湯 加味方으로 치료한 여드름 환자의 임상보고. 大韓外官科學會誌. 2008;21:191-197.
29. 김성범, 김경준. 連翹敗毒散加味方이 炎症狀態의 面疱에 미치는 影響. 大韓眼耳鼻咽喉皮膚科學會誌. 2002;15:50-62.